

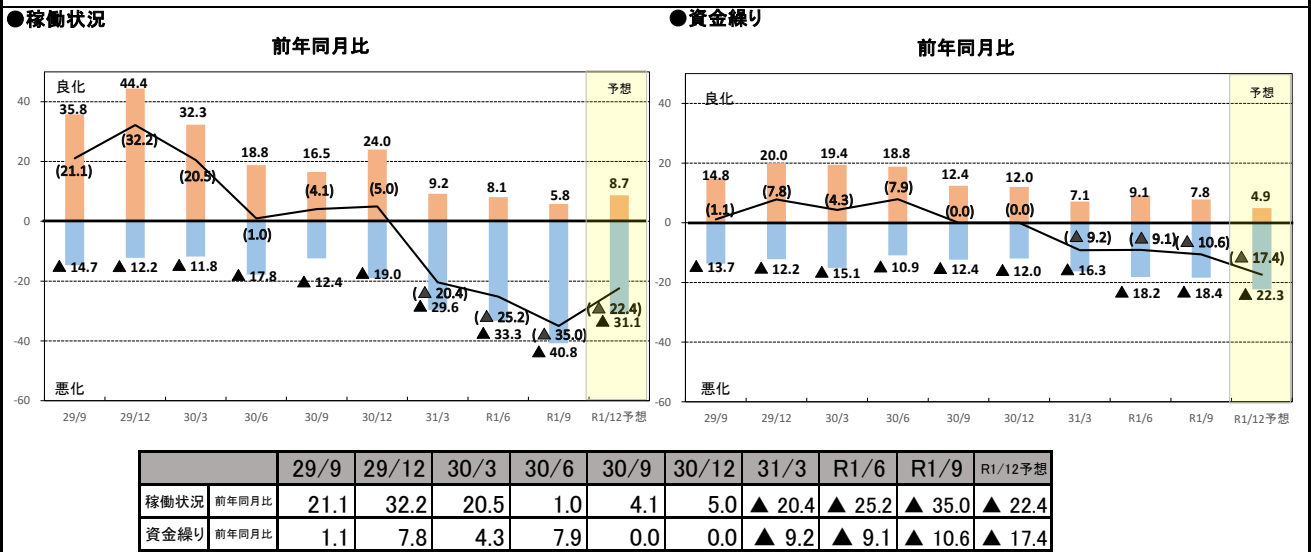
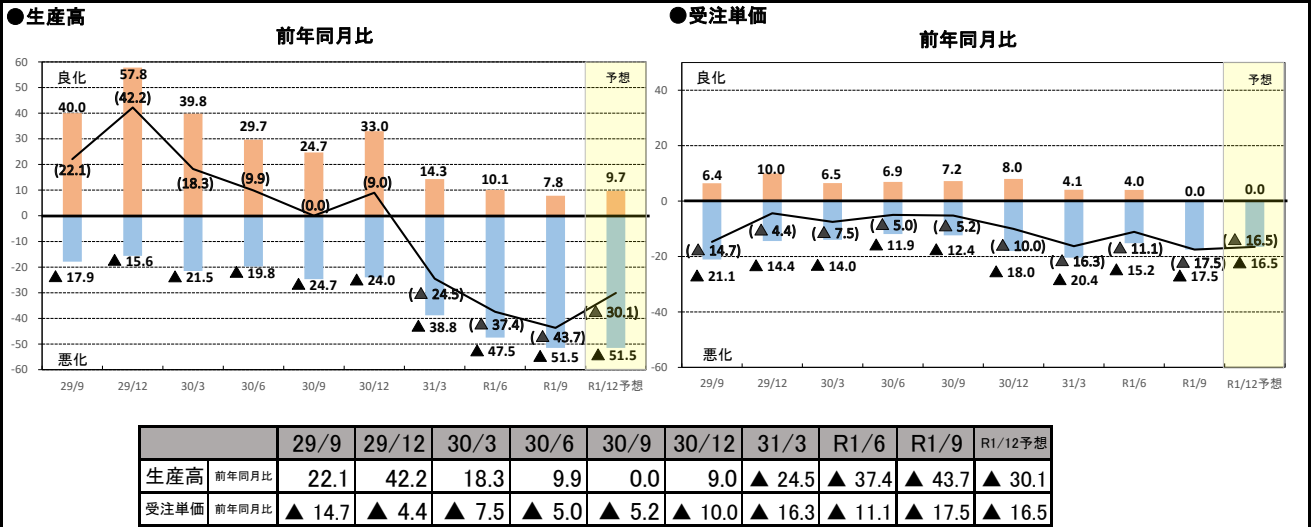
受注企業動向調査結果

-2019.10-

- 調査時点 令和元年9月調査(令和元年9月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 103社(回答率:68.67%)

＜業種内訳＞	
プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	7社
金属製品	18社
一般機械器具	26社
電気機器	18社
輸送用機器	7社
精密機器	12社
縫製	7社
計	103社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



- 概要(総合)
- ・生産高(前年同月比)DIは▲43.7で前回の▲37.4から6.3ポイント減の悪化となった。
 - ・受注単価(前年同月比)DIは▲17.5で前回の▲11.1から6.4ポイント減で悪化となった。
 - ・稼働状況(前年同月比)DIは▲35.0で前回の▲25.2から9.8ポイント減の悪化となった。
 - ・資金繰り(前年同月比)DIは▲10.6で前回の▲9.1から1.5ポイント減の悪化となった。
 - ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲30.1で13.6ポイント増の改善、受注単価は▲16.5で1.0ポイント増の改善、稼働状況が▲22.4で12.6ポイント増の改善、資金繰りは▲17.4で6.8ポイント減の悪化という予想になった。
 - ・その他自由意見として、人手不足と残業規制により稼働状況が悪化している、先行きが不透明で見通しがたかない、運賃が増加しているという意見が寄せられた。